



新渡戸稻造記念講演会

この講演でクエーカーである私の人生についてお話ししようと思います。

私の人生のテーマは信仰、コミュニティそして世界でどう生きるかであり、これらは互いに絡みあっています。そして私の場合「イエスからの試練」がその軸となっています。

私は1938年にクエーカーの両親の元、イギリスのジョーダンズで生まれました。この村とクエーカーのミーティングは私に安心感と温かな子供時代をもたらしました。日曜の朝の習慣は私のクエーカー人生を支えてきました。祈りと沈黙の中で私たちは愛で結ばれていると感じます。私は56年に徴兵されたときは迷わず良心的兵役拒否者の登録をし、病院や難民援助の奉仕活動に従事しました。そこで学んだのは、キリスト教は単なる神学体系ではなく、生き方であり、人として人を愛すると

Challenged by Jesus

イエスからの試練 お話し ク里斯・ローソン

私は生活全般をサポートしました。学生との話し合いと聖書研究の時間はとても楽しく、充実していました。多くの友情を育むとともに、さまざまな人たちの人生の厳しさにも接しました。また、私は家族をコミュニティと呼びますが、それは家族が他者との関わり合い、そして愛と奉仕の授受がある場だからです。けれど私たちは家族以外の

人々とも友情、信仰、仕事、趣味などによって結びつきます。誰もが多様なコミュニティの一員になり得るのです。私は27年間、ウッドブルックの

心をかよわせ
ひととなる
讃美歌21 560番

主イエスにおいては
世界の民

クのスタッフの一員であつたことをとても幸運に思います。

最後に、私たちが抛りどころとする信仰とは、詰まるところ平和に目を向けることだ、ということを強調します。世界中がロシアとウクライナのクエーカーが直面している苦悩に接し、彼らのために祈りました。

うな状況の中で国境を越えたオンライン集会に参加しているでしょう。一部のクエーカーは、衝突を避ける方法を提案するメッセージを指導者に送っています。東京月会が送つているのも目にしました。平和的解決を求めるクエーカーの訴えが直ちに

ウクライナ侵攻でクエーカー社会の絆が試されています。皆さんも、この状況の中で国境を越えたオンライン集会に参加しているでしょう。私はクエーカー人生を振り返る機会を下さったことに感謝します。そして皆さんのが各自の置かれた状況の中で、クエーカーとして生きていくための支えや促しが見つかる切に願っています。

窓

ロシアのウクライナへの軍事侵攻から一年。国際連盟の初代事務次長を務めた新渡戸稻造が、昨年生誕160年を迎えました。

「太平洋の橋になる」という彼の言葉は有名です。新渡戸が生きていたら、戦争当事者たちにどんな働きかけをするでしょう。

ところで、多彩な能力と実践力を發揮した新渡戸を精神科医の故神谷美恵子は「生涯に何度もうつ病状態に陥った。先祖の抜群の才能として支えていたと想像されます。よき理解者である妻の温かい眼差しに稻造は安心して心を休めていたのでしょう。

(宣子)

日本年会総会を開催

22年11月19～20日、東京月会会堂で

3人の会員が、11月に発行した「クエーカーハンドブック」を読んだ感想を発表し、話しました。

第1部 クエーカーの歴史

吉中美貴（東京）

一番印象に残ったのは、「分裂ヒックス派とオーソドックス派」の章の内容です。クエーカーの人々は温厚で寛容なイメージがあつたので、一世紀以上続いた対立や分裂があったという事実に驚きました。しかし、考えてみる意見の相違は必ず生まれるものであるということは、あたり前な事実であると気づきました。

最近ネットで目にした質問で、「自分は運がいいと思うか」ということについて考えたときに、迷わず運がいいと思える自分に気づきました。なぜだろうと考

えていくうちに、私は今のところ、自分に起るすべてのことはどうしたことであっても神様が最善のこととして与えて下さるものである、ということに対してゆるぎない信頼があるからだと思いました。それが信仰なのではないかと改めて気づいたのです。

クエーカーハンドブックを読んで

第2部 信仰と実践

後藤久美子（水戸）

そのような、自分と神様との深いつながりを持った人たち同士が集う場所での、クエーカーの「集会での意向」に、分裂や対立にたいしてのクエーカーらしい方法論があらわれていると思いました。ハンドブックの40ページにもある通り、「多数決に寄よらず、話し合いによつて全員一致」を目指すこと、「時として、長い時間と忍耐が求められる」が、「集会での決定は、出席者全員が、神のみ心にそつているものだと確信できるもの」という部分は、人同士は違うけれども神様を通してつながり合うための希望がこめられているんだなあと再発見することができました。

第2部に限った事ではありませんが、私は今のことでも、自分に起るすべてのことを見て知る事ばかりでしたので、「そうだったのか」「そういう事なのか」という思いが多くあります。した。そして、ひとつの方、捉え方ではなく、さまざまな角度からの説明に、長いクエーカーの歴史の重みを感じます。クエーカー



22年 年会総会

の人々が静かに神さまと向き合い、信仰のあり方を求める思いが、私は木の枝のように見えました。樹木の幹の部分は神さまです。 第1章「内なる光」は、冒頭にもるように、クエーカーの信仰の中にあるように見えます。この「光」という表現が文字ではなく、姿として捉えられ、目に見えるものでなくとも「感じる」ことでイメージに繋がつていきます。光の強さ、あたたかさは人によつても違うと思います。それでも、一人ひとりに与えられている事には違いがありません。「内なる光」とは：というのは、クエーカーにとって永遠のテーマであると思います。

第3章「信仰 礼拝形式」の中で、特に「感話」の部分に関心を持ちました。私は水戸月会の会員で、他の月会の礼拝の参加経験は年会総会、修養会以外ではありませんでした。しかし、幸いと言つてよいのか、コロナ感染流行の影響で、水戸月会の礼拝で、水戸月会の会員で、他の月会の礼拝会となつていて知る事ばかりでしたので、「せんが、私にとりましては初めて知る事ばかりでしたので、「そうだったのか」「そういう事なか」という思いが多くあります。した。そして、ひとつの方、捉え方ではなく、さまざまな角度からの説明に、長いクエーカーの歴史の重みを感じます。クエーカー

月会の中でも時代によつて、状況が変わつてきていると思います。以前、水戸月会は礼拝当番を月3、4回決めていましたが、現在は月1回としています。それでも、他の回でも自然と感話があります。時には讃美歌のみの時もありますが、ハンドブックの中にも、感話がない時も聖霊が一人ひとりに働きかけているとして、大変な要素ではあるが、根本的な要素ではありませんとあります。

感話に決められた形はありませんが、現在の各月会の礼拝会の状況、様子をお聞かせいただきたいです。参加人数は年会総会資料などにもあります。ただし、どのような感話をされているのか、雰囲気を教えていただきたいです。私が参加した時の東京月会礼拝会の感話は、聖書の箇所を読み、自身の経験、生活と繋げた話でした。水戸月会もかつてその形が主流でしたが、現在はそれとどうわねない形もあります。同じように、座席の座り方など小さな違いもあると思います。各月会が持つ空気を他の月会も認め合い、共有できる機会を年会総会や修養会などでつくつていけたらと思います。

最後に、第4章「信仰の実践」の中、クエーカーは「平和教会」と呼ばれているとあります。また、クエーカーハンドブックの随所に平和

活動や救済活動の歴史、功績が書かれています。現在、こうしている間も、ウクライナをはじめ、さまざま国々では辛い思いを抱え、今日、明日を生きるのに必死な方々がいます。この数年の間も、各月会でもいろいろな平和活動をされている事を知り、クエーカーの精神が現在にまで受け継がれていると感じます。今後、私達にできる平和活動のあり方を考え、この精神をどのようにして次世代に繋げていくのかが課題だと改めて気づかれます。

第4部 日本クエーカーの歴史

鯉淵博子（土浦）

私自身の学びの課題として5つの疑問が生じました。

①「第3期 自立を求めて」は本文

が4行と短いのはなぜか？

②「第4期 第二次世界大戦中の試練」に「多数の宣教師の離日は、教

会合同と並んで日本のクエーカーの活動を低下させる大きな要因となつた」とあるが、個人の信仰や友会組織の自立との関係はどうか？

③「第5期 戦後の復興」には、連合国の方々が日本を再び占領する事態や組織の働きが大きくなる中、60年に土浦月会は日本基督教団から友会に復帰を決議したとある。その時

まな国々では辛い思いを抱え、今日、明日を生きるのに必死な方々がいます。この数年の間も、各月会でもいろいろな平和活動をされている事を知り、クエーカーの精神が現在にまで受け継がれていると感じます。今後、私達にできる平和活動のあり方を考え、この精神をどのようにして次世代に繋げていくのかが課題だと改めて気づかれます。

に月会を去った人もいたとのことだが、年会全体としてもその後の教勢にどのくらい影響しているか？

④「第6期 真の自立の模索」では、65年に日本年会が宗教法人化されたことと相まって、同年ファイラデルフィア年会日本委員会から、67年をもつて援助を終結するとの書簡があった。その際「日本年会は主体的に活動す

る親愛なる世界の友へ

キリスト友会日本年会は22年11月19～20日秋空の下、東京月会会堂において定期総会を開催した。テーマを「大切なのは植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神なのです」（コリントI 3章7節）と掲げた。新型コロナウイルスの感染者が第8波で再び増え始め、緊張の続く中、神の導きと恵みに4行と短いのはなぜか？

②「第4期 第二次世界大戦中の試練」に「多数の宣教師の離日は、教会合同と並んで日本のクエーカーの活動を低下させる大きな要因となつた」とあるが、個人の信仰や友会組織の自立との関係はどうか？

③「第5期 戦後の復興」には、連合国の方々が日本を再び占領する事態や組織の働きが大きくなる中、60年に土浦月会は日本基督教団から友会に復帰を決議したとある。その時

る決意を表明した」とあり、同時にいくつかの要望もしたが、実際はどうであったか？

⑤「第7期 信仰と実践の定着を目指して」では、88年に日本フレンズ奉仕団の『フレンズ世田谷センター』ビルを着工し、保育園と老人施設が併設された。同年、世界の友が集う二年会を東京で開催した。また世

した。ならびに、将来計画委員会はフレンズセンターを含めて検討することにした。また、一時教務委員会に含めていた社会平和委員会を23年役員改選時に復活させることにした。

そして、22年の活動計画と予算を承認し、新しいスタートを切った。話し合いIでは、総会に間に合わせて発行した『クエーカーハンドブック』とおおう光の大蔵を起草者である明石紀雄氏からまず、執筆の動機が詳しく説明された。その後、3人の会員が感想を述べた。クエーカーの歴史、信仰と実践、日本の現状などについて熱心な話し合いがもたらされた。今後もこのハンドブックを積極的に活用していくみたい、という多くの意見があつた。

久しぶりの再会を喜びながらの夕食の後、話し合いIIでは「各会員が月会・年会とどう繋がっていくか」を

界大会への参加、海外との交流、各種声明の発信、ルーツを訪ねる旅、『ジョージフォックスジャーナル』翻訳刊行、『友会信仰のしおり』採択、そしてこの『クエーカーハンドブック』の発行に至った。今、私達の信仰の組織である日本年会は真に自立しているかを問い合わせた。

う二年会を評価する月会もあれば、オンライン礼拝会に慣れててしまふことを懸念し、対面での礼拝会を待ち望む声もあつた。

総会後的新渡戸稻造記念講演会は、英國の友会徒クリス・ローリソン（FWCC代表）の講演が「イエスからの試練」というテーマで行われた。講演者によつて事前に録画および原稿が用意され、新しい試みとして翻訳字幕付きのビデオが作成された。その後Zoomでの話し合いが行われた。

その後Zoomでの話し合いが行われた。今後もこのハンドブックを積極的に活用していくみたい、という多くの意見があつた。

久しぶりの再会を喜びながらの夕食の後、話し合いIIでは「各会員が月会・年会とどう繋がっていくか」を

おおよび決算報告があつた。世界との繋がりをこれからも強めていくために、FWCCの国際会議などに派遣する予算を継続して捻出することに

代表書記 武田眞知子
キリスト友会日本年会

クエーカーの書棚から

非暴力を実践するためには

著者 ジーン・シャープ
訳 谷口真紀
出版 彩流社

非暴力抵抗運動をした人として、私たちにはガンジーや阿波根昌鴻を思い浮かべます。非暴力は何もしないことではありません。著者は「非暴



この本は、非暴力の研究者である著者が非暴力と闘う戦略のために実践する

力行動は消極的な方法ではない。非暴力という手立てにもとづいて行動を起こすことだといいます。しかし、そもそも非暴力とは何か、具体的にどうやつたらよいかわからぬので、しかたなく圧力に従つてしまうこともあります。

私たちには今、物価高や防衛力強化などで命が脅かされています。非暴力によって声を上げていかなればなりません。職場や身近な場所で受けける圧力に抵抗するためにもお勧めの本です。東京月会会員の谷口真紀さんが翻訳しました。（伊藤めぐみ）

他者への思いやり

タイム・ジー（FWCC代表書）

初めに、最近私がオンラインで参加した南アフリカ年次総会のことをお伝えします。この集まりのポイントは**ubuntu**（他者への思いやり）でした。これは、南アフリカのクエーカーにとってテーマの中心となる意味深い言葉です。24年に南アフリカで開催される世界大会の準備を進める上で、私たち全員にとって重要なことです。

では、**ubuntu**とは何でしょう。この用語は、すべての人が認められ、尊重され、耳を傾けるのに値する存在であり、私たちはみんな相互に依存しているという信念、道徳、習慣を指します。デズモンド・ツツは

「私の人間性はあなたのものに巻き込まれ、分かちがたく結びついでいる」と言いました。また、中央および南部アフリカの「信仰と実践」の中では、「私たち全員の間に見えないつながりの回路に根ざしていえる」と説明しています。これは、すべての人に神が存在するというクエーカーの信念とも共鳴し、聖書の中で隣人を自分自身のように愛するようになると、何度も言っています。そしてまた、「一人を傷つけることはすべての人を傷つける」という諺にも共通しています。

毎日洪水の避難生活者数人の手助けをしているのですが、とにかく圧倒されています。昨日は84歳のおばあさんの手助けをしました。3匹の猫とホテル生活を2週間しています。ホテル代を払い続けることが困難で、洪水で水と泥だらけになつた家にはもどれないといいます。それで、連邦政府の緊急支援のスタッフの所に連れてきました。

長期に3匹の猫と生活できるところがみつかるかどうか。私にできることはわずかです。カリフォルニアではホームレスの人たちへのかかわりが行政の最大の問題になつています。

今年は**ubuntu**の精神を心に抱いてください。そうすれば、世界で神の愛の道具となるために、私たち一人ひとりが力を發揮できるようになります。

カリフォルニア水害で

水野崇

じがしました。
この半年ぐらい、高齢の夫や父を亡くした人たちの話を聞きました。80歳をこえて生活の立て直しは、苦しい日々です。私はどこまで手助けができるかわかりませんが、幸い我が家は被害がなかつたので、できることはしようとキティに話しています。

（東京月会会員）

編集後記

昨年11月の新渡戸講演はFWCCの元代表書記で現在イギリスのルイス月会会員であるクリス・ローソン

さんにお願いし、イギリスからオンラインによる講演を行つた。初めてのオンライン講演だつたため、会員が手分けして翻訳字幕付きの動画を作成した。会場の会員にもオンライン参加の会員にも概ね好評だった。講演後には画面の向こうのローソン夫妻と会場およびオンラインの参加者との質疑応答、歓談などもあり和やかな雰囲気のうちに講演会を終了することができたことに感謝したい。

（由香里）

発行 キリスト友会日本年会

東京都港区三田4-8-19

TEL・FAX 03(3451)7002

編集

山田由香里・伊藤めぐみ・

加畑暁美・渡辺宣子